

## 看護師の働き方改革への対応

### ～固定チームナーシングからモジュールナーシング変更による時間外勤務削減と看護の質の維持～

田中 直子<sup>1)</sup> 樽見 桂子<sup>1)</sup> 高草木 ゆみ<sup>1)</sup> 河端 裕美<sup>1)</sup> 高橋 陽子<sup>1)</sup>

横堀 祐太<sup>2)</sup> 茂木 寛<sup>2)</sup> 風晴 俊之<sup>3)</sup> 美原 盤<sup>4)</sup>

1) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 看護部

2) 公益財団法人脳血管研究所 人事・総務部

3) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 事務部

4) 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 院長

[はじめに]「働き方改革関連法」が施行され時間外労働の上限規制が設けられた。当院でも看護師の時間外勤務の多さは課題であり、看護の質を落さず時間外勤務を削減する対応が求められた。そこで回復期リハビリ病棟(50床)の看護方式を固定チームナーシング(固定チーム)からモジュールナーシング(モジュール)に変更した。固定チームは看護師5～7名によるチームで25床を担当し、看護師1人が5～7人の患者を受け持つ方式であり、モジュールは看護師2～3人からなるチームで12人の患者を受け持つ方式である。今回、看護方式の変更による勤務時間と看護の質に対する効果について検討したので報告する。

[方法]固定チーム時期(令和2年11月～令和3年5月:7か月間の病床稼働率96.6%、入退棟患者合計数347人)とモジュール時期(令和3年6月～令和3年12月:7か月間の病床稼働率97.3%、入退棟患者合計数388人)における看護師の時間外勤務時間、また、看護の質の観点から身体拘束率、転倒転落率、新規褥瘡発生件数、レベル3b以上のアクシデント件数を調査した。

[結果]看護師の時間外勤務時間は、固定チーム時期 $5.36 \pm 1.32$ 時間、モジュール時期 $3.21 \pm 1.12$ 時間と低下した。身体拘束率は、それぞれ2.7%、4.8%、転倒転落率は4.7%、2.5%、新規褥瘡発生件数は0.3件、1.1件、アクシデント件数は2件、0件であった。

[考察]当該病棟の病床稼働率の向上、入退棟患者数の増加による業務の高度化・複雑化、さらに新人看護師が増える一方、中堅看護師や看護補助者の退職があり、提供する看護に差が生じ、その結果、看護師の時間外勤務時間は増加していた。モジュールは、看護師の技量が一律でない場合、病棟全体の看護の質、個々の看護師の負担の平

均化に有用と思われ、時間外勤務短縮に寄与したと考えられた。